

児童が主体的に取り組む J R C 活動

～学校教育目標に基づいた奉仕活動～

港区立筈小学校

- 住所：東京都港区西麻布3-11-16 ●連絡先：03-3404-1530
- 学校長：野村 正司 ●担当者：主任教諭 柴田 裕子
- 学校紹介：数多くの大使館に囲まれ、屋上からは六本木ヒルズや東京タワーを望む大都会の真ん中に立地する、創立107年の歴史をもつ学校です。
- 学校規模：児童数 385名 (13学級)
- 地域特性：大使館に囲まれた西麻布という土地柄、大変国際色豊かで、10カ国以上の国の子供たちが在籍しています。正門の前には筈公園という、地域の子供たちが元気に遊ぶことのできる公園や、歩いて行くことのできる距離には四季の移り変わりが美しい“有栖川宮記念公園”があり、その自然を味わいながら写生会をすることができる、都会のオアシスに恵まれた地域です。

| 活動の種類 | 活動の単位 | 活動期間 | 教育課程上の主な位置づけ |
|---------------|-------|------|--------------|
| 安全、環境、奉仕、国際理解 | 学校・学年 | 通年 | 総合的な学習の時間 |

活動のねらい

青少年赤十字（J R C）の一員として、本校の教育目標でもある「気づき 考え 進んで実行する」という精神を児童主体の活動を積極的かつ効果的に取り入れ、学校の教育活動全体で実践し育てている。

具体的な活動内容

1. J R C登録式【5月】

年度はじめにJ R C講師の先生をお招きして、全校加盟の登録式を行った。事前に各クラスで学年の実態に合った指導を行うことで、どのような心構えで活動に取り組めばよいのか、意識付けを行った。

2. あいさつ運動【各学期2回】

ボランティア委員会が中心となって、全校であいさつ運動に取り組んでいる。低学年と高学年がペアになって行うことで、上級生が下級生の手本になろうとする意欲を高めることができ、より児童の主体的な活動となった。また、PTAや地域の中学校とも連携することで、元気なあいさつを地域へ発信するよう心掛けた。



3. 東日本大震災被災地へ向けての募金活動【5月】

一昨年から取り組んでいる石巻市立北上小学校への募金活動を、今年度も実施した。今までに竹馬や一輪車などの遊具や図書館用の本を贈った。北上小学校の校長先生からいた

だいた「あの震災のことを忘れないでもらえることが何よりの支援です。」という言葉を大切に、3月11日には児童集会や音楽朝会で「花は咲く」を歌い、それぞれに想いをもち、改めて考えを深める時間をつくっている。



4. 自転車安全教室【6月】

警察署の方をお招きして、ビデオでの学習や校庭での自転車教室などを行った。自分の体験と重ね合わせることで内容であるため、交通ルールを守ること、安全運転についての意識を高めることができた。

5. エコアクション週間「Co²を減らそう運動」【7月】

本格的な暑さになり冷房や水の使用が増える時期に、高学年児童が各委員会のできることを話し合い、全校児童に節電・節水を呼びかけ、それぞれにできるエコを考えて取り組んだ。休み時間に保健委員は水道の蛇口をチェックし、ボランティア委員は空き教室のエアコンや照明の点けばなしを見て回った。図書委員はエコに関する本の紹介、集会委員はエコクイズなどに取り組んでいた。クラスでは帰りの会で「今日できた自分のエコ」を発表するなど、一人一人の意識を高めるような活動を行った。

6. なかよしクリーンデイ【12月】

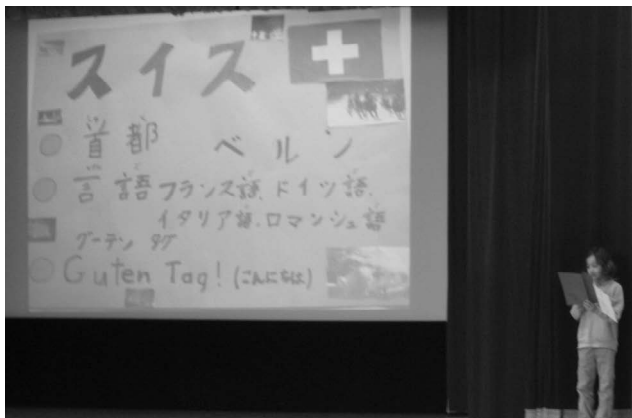
校庭が落ち葉でいっぱいになる時期に、朝学習の時間を利用し、たてわり班で落ち葉拾いを行った。始める前には山のようにあった落ち葉がすっかり片付き、袋に詰められた大量の落ち葉ときれいになった校庭を見ながら「気持ちいいね」という児童の様子から、活動を通しての学びと成長を感じることができた。



7. ワールド活動【各学期1回】

外国の児童が多数在籍する本校の特色を生かし、それぞれの国について子供たちが紹介したり、保護者を講師に招き、国の様子やあいさつ、文化などについて学んだりする時間を設けている。

普段はクラスで一緒に学習したり遊んだりしている友達と、自分の国についてクイズ形式などで説明することによって、より世界を身近に感じることができる活動となっている。



8. インターナショナルディ【12月】

国際色豊かな本校の特色を生かし、さらに深めるため昨年度から取りくんでいる。10カ国を超える国々の講師による文化交流ワークショップや、ネパールの子供たちに学用品やおもちゃを贈るサンタクロース大作戦などを高学年有志による運営で行った。



その他の活動

- 安全：セーフティ教室、着衣泳講習、消防署見学、地域安全マップ作り、交通安全教室など。
- 環境：水道キャラバン、下水道出前授業、ゴミ分別の徹底、エコキャップ運動、書き損じハガキ回収など。
- 奉仕：視覚障害体験（盲導犬体験を含む）、早朝落ち葉掃き、年賀状ボランティアなど。
- 国際理解：日本語学級交流授業

活動のポイント

- 児童主体の活動を中心として取り組むように計画を立てる。
- PTAや地域の小中学校と連携し、募金活動、あいさつ運動などに取り組む。
- NPO団体や地域、保護者などのゲストティーチャーを活用し、より専門的、具体的な内容での体験的活動を取り入れる。

活動の成果

- 安全：近隣の警察署や消防署の協力を得ながら、児童の実態に合った時期や内容で取り組むことで、児童が自然に興味関心をもつことができ、効果的な活動となった。
- 環境：ゲストティーチャーなどによる授業からの学びだけでなく、各委員会を中心とした“児童発信の活動”を取り入れたことで、児童が主体的に取り組む活動として環境学習を意識付けることができた。
- 奉仕：ボランティア委員会が中心となって、募金活動やあいさつ運動への参加を直接呼びかけることにより、多くの児童がボランティア活動に積極的に参加するようになった。また、学校公開に合わせてPTAと連携することで、児童の活動の様子を保護者にも見てもらうことができ、より本校のボランティア活動について理解を得ることができた。
- 国際理解：在日外国人の多い地域特性、全校児童数の一割弱を有する帰国子女および外国籍児童、また港区独自の国際科の学習（本校では1年生から週2時間、ネイティブティーチャーによる英語の授業）などの環境により、日頃から外国文化に対する理解度は高い。その長所を生かして、より充実した活動になるよう、様々な国の講師を招いての体験型文化交流や、地域を特定しての物資支援を行うことで、より世界を身近に感じることができた。

今後の課題

- 今年度、新たに取り組んだ内容を含め、継続的かつ計画的に実施できるよう、各活動において今年度の反省を生かしていくこと。
- それぞれの種類の活動が、1年間、また6年間の流れの中でバランス良く取り入れられるよう、年間指導計画を見直すこと。
- 福祉的活動などの学習において、赤十字の学習プログラムを活用できるよう、事前に各学年への情報提供を進めていくこと。